



DX三種の神器の導入と地域防災への応用

～LINE 1文字メッセージで伝える緊急支援要請～

埼玉県春日部市 武里みどり住宅地自主防災会 村上 治



1 はじめに

武里みどり住宅地は春日部市南部の田園地帯に造成された住宅地で、現在416世帯、約1,000人が住んでいます。

武里みどり住宅地自主防災会は当地区自治会内で防災機能を担う組織として結成され、会長をはじめとする役員は自治会の役員が兼務、これに加えて、数名の防災士から構成されています。

2 活動の背景

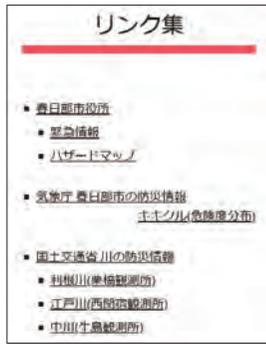
近年、気候変動による災害が多発・大規模化し、巨大地震の発生も危惧されています。当住宅地内では災害弱者である高齢者世帯が増加しており、万一の災害発生に備えた地域防災力の強化が重要な課題となっています。災害発生時は、正確な情報収集と的確な情報発信、要支援者からの緊急支援要請の確実な受信と速やかな伝達等が不可欠であり、地域のコミュニケーション力が防災力の要であると考えます。そこで近年、世代を超えて普及が進んでいるスマートフォン等を地域のコミュニケーション力強化に活用する方法を検討し、災害発生時の具体的な行動計画に反映させ、訓練していくことにしました。

3 導入システムの概要

地域のコミュニケーション力を強化するため、DX三種の神器として、(1) ホームページの開設、(2) オンライン会議の導入、(3) LINE公式アカウントの取得と友だち検索データベースの構築、を行いました。以下、これらの詳細について説明します。

(1) ホームページの開設

通常の情報展開に加え、リンク集のページに、市役所からの緊急情報、ハザードマップ、気象庁の防災情報(キキクル)、国土交通省川の防災情報へのリンクを掲載しています。ここでは、追加の検索をすることなく、当地区に関連する情報が直接表示されるようになっています。



リンク集のページ

(2) オンライン会議の導入

災害時は、外出すること自体が危険であることから、自主防災会本部はZOOMを使ったオンライン会議上に開設し、各役員は自宅で安全を確保したうえで、キキクル等防災情報の映像を参加者全員で共有しながら情報交換や対策検討を行うことができました。

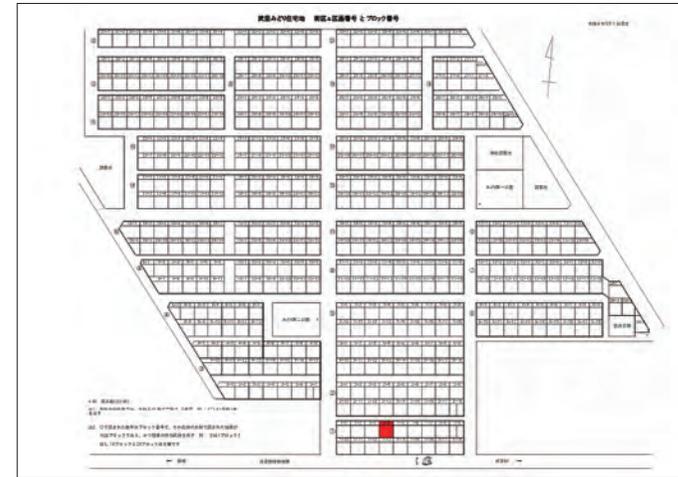
(3) LINE公式アカウントの取得と友だち検索データベースの構築

新たにLINE公式アカウントを取得し、居住者に友だち追加するよう促しています。友だち追加した居住者のニックネームは名前や住宅地内の区画番号とともにデータベースに登録します。

災害発生時支援要請者からLINEメッセージを受信すると、そのニックネームからデータ

No	ニックネーム	支援要請者	ブロック	街	区
1	きよもり	1ブロック 1-4の平さん	1	1	4
2	よしむね	24ブロック 32-4の徳川さん	24	32	4
3					

友だちデータベース検索画面



生成された支援要請者宅地図

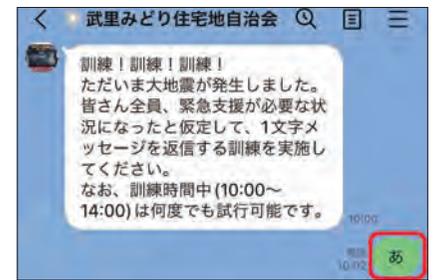
ベースを検索することで、支援要請者の名前や区画番号を割り出し、住宅地の地図上で支援要請者宅の位置を赤色で表示するようにしています。

万が一被災した際は、LINEで自主防災会(自治会)宛に任意の1文字を送れば、緊急支援要請を発信したことになります。

4 災害発生時行動計画

災害発生時は以下のような手順で支援要請者の支援に当たります。

- ①初動
自主防災会の幹部役員の誰かが初動を開始します。担当は決めておきません。
- ②自主防災会本部の開設
初動を開始した者がZOOMでのオンライン会議を招集します。
- ③緊急メッセージの配信
友だち登録者全員に対して、支援が必要な場合1文字メッセージを返信するよう促す緊急メッセージを配信します。
- ④緊急支援要請メッセージの送信
支援の必要な人は緊急支援要請を示す1文字メッセージを返信します。
- ⑤支援要請者の特定と駆けつけ指示
友だち検索データベースを検索して支援要請



訓練時の緊急メッセージと緊急支援要請1文字メッセージ

者の名前と場所を特定、地図をホームページ(非公開エリア)にアップし、ZOOM及び公式LINEを通じてそこに

駆けつけるよう指示を出します。

⑥駆けつけ・対応

近隣の役員や住民で動ける人が支援要請者宅に駆けつけ、対応します。

5 現在の状況

現在、LINE公式アカウントの友だち登録は416世帯中142世帯(34%)、178名となっています。仕事や学校等、昼間は家族が別々に行動しているケースが多いため、1世帯で複数名の登録を推奨しています。また、遠隔地にお住いの家族も登録することができ、遠方から緊急支援要請を発信することも可能としています。

これまでに3回、デジタル防災訓練と称して、登録者全員が被災したと想定した緊急支援要請メッセージ発信訓練を実施しました。毎回7割前後の方が訓練に参加しています。

6 今後の課題

このシステムを立ち上げてから約1年半がたちましたが、まだ、友だち登録世帯数が半分にも満たず、LINEの操作も高齢者には難しいとの声も聞かれます。今後、友だち追加の勧誘を継続していくとともに、希望者には操作説明会も開催しようと考えています。また、想定される様々な災害リスクに応じたデジタル防災訓練を企画し実施していこうと考えています。